

会 議 録

会議名	平成 24 年度第 6 回小金井市学童保育所運営協議会	
事務局 (担当課)	児童青少年課	
開催日時	平成 24 年 10 月 30 日 (火) 19 時 00 分～21 時 15 分	
開催場所	601 会議室	
出席者	委員	高橋委員長、水谷委員、原島委員、野中委員、齋藤委員、入月委員、山倉委員、曾我委員、深澤委員、小澤委員、仙澤委員、中山(恵)委員、鈴木委員
	事務局	越学童保育係長
会議次第	1 開会 2 議題 (1) 小金井市学童保育所運営について (2) その他 3 閉会	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・年少扶養控除廃止に伴う学童保育育成料について (資料 1) ・学童ひろば事業 (「平成 23 年度児童館のあゆみ」より) (資料 2) ・放課後子ども教室 (「平成 23 年度事務報告書」より) (資料 3) ・小金井市じどうかん子育てひろばのご案内 (平成 24 年度改訂版) ・第 5 回会議録 (案) 	
会議結果	1 会議録の確認 ・第 5 回会議録 (案) の内容を確認。確定とする。 2 議題 (1) 指導員の研修について ・10 月 6・7 日に埼玉で開かれた全国学童保育研究集会の報告。 全体会では、震災の被害に遭った学童の指導員の話聞いたが、いまだに混迷を極めていて、子どもたちの心のケアもまだまだ必要ということだった。基調講演では、子どもの育ちに関する話があり、2 日目の分科会ではさわらび学童の父母が全国の参加者を前に父母会の事例報告をした。全国研や三多摩フォーラムには、小金井からは父母のみの参加がほとんどだが、他の自治体では指導員も参加し、指導員の勉強の場になっている。可能であれば、父母も参加している研修会に指導員も参加していただければ、父母として心強く感じる。(学) ・こういった研修に参加する場合、予算面で旅費は出るか。また、参加できない規則などがあるか。開催日は土日。全国研は年 1 回で全国を回るので遠いと参加しづらいと思うが、三多摩フォーラム (年 1 回日曜開催)	

は三多摩なので、それほど交通費もかからない。指導員で個人的に参加してくださっている方もいる。(学)

- ・決まった研修に参加するための研修費はあるが、今はその他の研修に参加する予算はない。(市)
- ・三多摩の指導員で、「目標にしているのは小金井の指導」というのをよく聞く。小金井のことを聞きたいという人も多い。行くとお得な感じがする研修会でもあるので、うまく活用することをご検討いただければと思う。(学)
- ・業務と位置付けるかどうか。外部の研修としては、毎年2人が発達関係の研修に業務として参加している。その他は、各自が自分のお金と時間で参加している。(市)

(2) 年少扶養控除廃止に伴う学童保育育成料について(資料1参照)

- ・今年度状況からの想定であるが、24年度の状況については表1の通り。仮に今年度と同じ人数が同じ所得だった場合は表2のように想定される。約4割の非課税及び課税標準額500万円以上の世帯は育成料の変更なし。区分の幅と控除額から見込んだ場合、83名が1ランク(2,000円)アップするかもしれない。あくまでも想定ということになる。(市)
- ・もともと子ども手当と相まって税制改正をした。各市の状況を見ると、小金井のような所得に応じた育成料のところは少なく定額の自治体が多く、税制改正を考慮しない予定と聞く。障がい児の受け入れによる人件費の増加や建て替えなどの環境整備で、かかる経費は右肩上がりになっている。受益者負担が基本であり税制に基づいて算定させていただきたい。(市)
- ・市が学童保育のためにお金を使っているのは分かる。ただ、今回の受益者負担増は、控除廃止という現象に対して結果としての値上げになっている。障がい児の受け入れや建て替えなどで学童保育にかかるお金が増えるから値上げになるという方が、納得しやすいのではないかと。(学)
- ・育成料の改正をしているのではない。国の考える控除廃止の影響を考える事業でもない。税制改正に基づいてご負担いただくのが筋だと思う。応能負担ということで、今まで課税標準額は変更していない。受益者負担の考えからすれば、前年をもとに小細工をする考えはない。(市)
- ・階段が2,000円だから納得できるが、もし1万円なら同じ説明でも納得できないということだと思う。(学)
- ・給料の手取りは増えていないのにどうして育成料は上がるのか、という人がいる。育成料の変わる世帯についてはお知らせを出していただければと思う。(学)
- ・個別にお知らせはしない。全体には説明を入れようと思っている。「入

- 所申請の手引き」や入所決定のときに一緒に入れる予定。(市)
- ・説明を聞くと公平な感じはする。現状はこれで理解した方がいいと思う。(学)

(3) ひろば事業について(資料2参照)

- ・資料「子育てひろばのご案内」と資料2で、実施場所・実施回数・利用者人数がわかるようになっている。(市)
- ・ひろば事業の拡充が言われているが、場所や回数について今後の見通しは。(学)
- ・「のびゆくこどもプラン小金井」推進市民会議の中でも委員からは、「週1回をもっと増やせないか」の意見も出ている。時間については、はじめは1時間だったのを、1時間45分に伸ばしてきた。学童保育の時間があるので、終わりはずらせないため、今以上に時間を広げるなら、朝のスタートを早めるかということになる。今は児童館事業としてやっているが、乳幼児グループ事業もあり、児童館職員が行っての拡充は難しい。勤務時間や学童保育の午前中の業務から考えて、学童職員が当たるのも難しい。具体的な拡大の方法については未協議。拡充すべき事業だとは認識しているが、現状の職員体制では拡大は困難。(市)
- ・NPOやひろば利用者の卒業生の親など、市民が協力していくなど、いろいろな方策を探れるとよいのでは。(学)
- ・市民だけで職員は行かないという形は、今は考えにくい。(市)
- ・建て替えたきれいな建物があり、10時半までクローズしてはもったいないという考えはある。先日の「子ども家庭支援センター運営協議会」では、「センターのひろばの利用者は年間1万人を超える。児童館や学童でもひろばをやっていることの周知が足りないのではないか。」「センターの位置が西に寄っているのもっと中央にほしい。」「センターの機能を市内にもっと分散させてほしい」などの意見が出ているが、今のところ拡充の具体的方法については、今のままでは進みにくい。(市)
- ・孤独に子育てをしている人にとって、ひろばはとても重要。仮に、指導員がノータッチで場所だけ毎日貸すという形にした場合、業務への影響はどうか。(学)
- ・エンゼルプランのころから市民の声が大きく、上から下りてきたものでなく、はじめは学童、今は児童館の職員だが、現場サイドでやってきたら好評だったので、看板を作り直したり、時間延長をしたりしてきた。(市)
- ・集会所のように管理業務を委託できるとよいのではないか。(学)
- ・10年前から比べると、すごい進歩だと思う。ただ、毎日でないとも機能しない。以前、市民集会所として使えないかという話もあった。市民がす

ごく求めている。(学)

- ・ひろばに関するみなさんの考えは。(市)
- ・空いている時間は使えばいいと思う。やるのであれば、回数を増やせるといい。できれば月～金。(学)
- ・学童は施設自体に限界があるので、発達支援センターにもう一つ大きいのがあるといい。(学)
- ・市庁舎を新しく作るときに、市庁舎の中にもつくってほしい。小さい子を、特に複数連れて遠くまで行くのは大変。数がたくさんあるといい。(学)
- ・今の体制では精一杯というのは理解できる。学童の事業としての守備範囲、枠組みはどれだけか。(学)
- ・ひろばは、現状は学童保育所を利用した児童館事業。(市)
- ・ひろば職員と学童職員がいれば、一つの施設で両方できる。要は将来的に職員を増やせるとよい。(学)
- ・今のところ「さくらなみ」と「さわらび」は、施設的にはもったいないと思うが、ひろばを行う具体的な予定はない。拡充する必要があるとは思っている。(市)

(4) 一時保育について(資料3参照)

- ・小金井の子どもの放課後の居場所としては、放課後子ども教室と児童館の事業がある。一時保育については、サービスとしてはあった方がよい、障がいのある児童の受け入れ、夜の時間延長など、大きな課題が他にもあるので、今のところ議論は進んでいない。(市)
- ・夏休み前に、年に数件の問合せはある。(市)
- ・他の自治体でやっているところはあるのか。(学)
- ・国分寺でやっている。逆に普段来ている子が夏休み中は丸々来ないこともある。(市)
- ・冠婚葬祭の緊急時ではなく、夏休みの要望が多い。保育園で一時保育をやっているところは別の場所でやっているが、学童では通常保育の中にそういう1日だけの子が入っても運営できるのか。(学)
- ・情報を集めている。子どもは学校では一緒なので、うまくやっているところもある。(市)

(5) 夜の時間延長について

- ・職員の勤務体制を工夫し、朝の時間延長を昨年夏休みより始めた。夜の延長については、土曜日の複数体制、非常勤職員の勤務体制も含め、指導員とも話し合いを重ねたが、結論としては、整理がついていない。(市)
- ・どんな勤務形態なら可能か。(学)

- ・保育時間と勤務時間で考えればはみ出る。全部正規職員で賄わなくてはならないかということ。土曜の複数体制も勤務時間の工夫でできないか検討しているが、正規職員だけでは無理。土曜のことと時間延長を絡めて実現できる方法を探っているが、今のところ決定打がない。(市)
- ・夜の時間延長は18時半で検討しているのか、19時か。(学)
- ・19時で検討している。(市)
- ・1年生の入学当初の不安がとても大きい。そこを乗り越えられれば延長の要望も減っていく。たとえば1年生だけ、1年生の1学期だけ延長保育を行い、その間に一人で留守番をする練習をして、それ以降は延長なしなども考えられないか。(学)
- ・他の自治体で、一度延長を決めてもさらに遅くまでの要望がすぐに出てきた。「子どもの育ちを考え、3年間で18時より後は一人で留守番ができるようにしましょう。」など、「こういう理由で18時までにはしている。」という方針がないので、親が自分の都合ばかりで考えて、18時半まで→19時まで→もっと遅くまで、と延長の要望がエスカレートしてくるのではないか。(学)
- ・そのあたりに関しては、かつて小金井では保護者とともに、17時以降は一人で留守番をする、ということを目指して意識づけするような保育要素もあったため、18時延長の話があった時には指導員の中でどのように考えるのかという議論となったが、市の新方針ということで十分な議論のできないまま実施となった。
- ・延長を利用するのであれば別料金をとっていいと思う。(学)
- ・保育園時代に先手先手で学童保育所のこと（保育時間は18時までであること）を知らせておくとよいのでは。(学)

(6) その他

《土曜の緊急体制について》

- ・あかね学童保育所で土曜に2人体制をとっているが職員の産休・育休により、あかねで2人体制が取れない場合、どこか他の学童保育所で2人体制をとっている。(市)

《子ども・子育て関連3法》

- ・子ども・子育て関連3法の成立で、地方版子ども子育て会議を行うことになったが、小金井ではどこでどのように行うのか。(学)
- ・具体的なところはまだ決まっていないが、イメージとしては「のびゆく子どもプラン」同様かと思っている。次世代育成なので、事業的には似ている。平成25年度にニーズ調査をし、それをもとに子ども子育て会議を行い、事業計画を練っていくことになる。(市)

《学保連大運動会》

- ・11月3日に第一小学校で行う。ぜひお越しください。(学)

《ドッジボール大会》

- ・今年度は第40回になる。昨年は運営協議会から各会長に下ろして、見回りの協力をいただいた。今年もよろしくお願ひしたい。(市)

次回は、11月27日(火)19時から。